

医学教育分野別評価
広島大学医学部医学科
年次報告書
2019年度

評価受審年度2017（平成29）年

令和2年8月



広島大学

**医学教育分野別評価 広島大学医学部医学科 年次報告書
2019年度**

評価受審年度 2017（平成 29）年

改善した項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
「行動科学」科目は1学年で設定される複数科目の中で取り入れられているが部分的であるため、6年間を通じて系統的に実施すべきである。	
改善状況	
<p>1. 医療者プロフェッショナリズムの中でコーチング、アサーティブコミュニケーション、患者のダイバシティをテーマとして新たに取り入れた。 アサーティブコミュニケーションは学内の臨床心理士の有資格教員が担当した。また、各講義では多くの時間をグループワークやペアワークに費やし、実践的な学習の場とした。</p> <p>2. 症候診断治療学のPBL学習において、心理社会的テーマであるHIVに関するテーマを導入し、タスクフォースを大学病院エイズ医療対策室の臨床心理士が担当した。検査の導入や告知などについてロールプレイなど実践的に学ぶことができた。</p> <p>3. 4年次の臨床入門の中で医療コミュニケーションとして医療メデイエーションのワークショップを行った。医師役、患者役でと振り返りをおこなった。</p>	
今後の計画	
・行動科学の評価についてそのコンピテンシーと評価方法について検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料1 授業概要（医療者プロフェッショナリズム(Medical Professionalism)）</p> <p>資料2 授業概要（臨床実習入門プログラム(Introduction to Clinical Clerkship)）</p>	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
低学年から高学年まで計画的に患者と接するプログラムを策定し、臨床教育を行うことを望まれる。	
改善状況	

<p>現在は1年次において3つの必修プログラムに学生は参加することになっている。①科目「医療者プロフェッショナリズム」の中で、4-5月に全学生が実際の患者と1時間の懇談の場をもっている。②1年次の夏季休暇中には「早期体験実習」として保健学科、歯学部、薬学部の学生とともに、県内各地の保健医療機関に2日間配属され、臨床現場での実習を行う。③秋以降に「医療行動学」で班ごとに学内において各部門での半日間の実習を計5回行っている。</p> <p>今年度は②においてグループごとに早期体験実習実施計画書を事前に作成し、提出させた。これまでは事前のグループ学習などもなく、当日集合し実習に参加するスタイルであったが、今年度は事前のグループでのディスカッションの時間を設け実施計画書を作成した。計画書は学生支援室に提出後、実習先とも共有され目的意識をもって実習に参加できるようにした。また、班ごとの振り返りシートも提出することとした。</p>
<p>今後の計画</p> <p>上記②「早期体験実習」において実習後の体験発表会を行うことを検討したい。これは各自の実習でのふりかえりの時間とすると同時に他グループの経験を聞きさらに学びを深めることを目的とするものである。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料</p> <p>資料3 合同早期体験実習 実習計画書, 振り返りシート</p>

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための示唆</p> <p>基礎医学，行動科学および社会学と臨床医学の垂直的（連続的）統合をさらに充実させることが望まれる。</p>	
<p>改善状況</p> <p>これまでも1～3年次望まれる3年間にわたり履修する垂直的カリキュラムとして基礎医学・臨床医学を網羅する垂直的統合科目「脳神経医学」のうち「脳神経医学Ⅰ」「脳神経医学Ⅱ」を実施していたが、「脳神経医学Ⅲ」を新設した。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>教育内容の重複・不足・偏りが無いのか、また到達目標の共有などについて検証・調整を行う。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p> <p>資料4 授業概要（脳神経医学Ⅲ（Medical Neuroscience III））</p>	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
改善状況	
<p>合否判定に関する異議申し立て申合せはある。その中で、試験問題に対する疑義申し立てについては、「学問的な内容に対する疑義は、原則、各講義ユニットに対して行うものとする」とある。申し立てがあった際のフローが不明瞭であったため、医学教育センターが試験後解答の開示とともに疑義照会についても期限をきめて受け付けることとした。</p>	
今後の計画	
<p>試験後の疑義照会の手順について、試験の正解を開示時に疑義照会について書式および締め切りを掲示した。各出題者へのフィードバックや試験評価への反映などについて検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 疑義照会申請書と回答書	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
現在の状況	
<p>入学時に受け持ちが決まっているチューターが、学生支援グループと連携して対応している。</p> <p>医学教育センターには公認心理士の有資格教員がいることから、チューターと連携し面談を行うこととした。必要に応じて保健管理センターとの連携も開始した。</p>	
今後の計画	
<p>医学教育センターには臨床心理士の有資格教員がおり、今年度はセンターの相談支援業務をチューターとの連携を強化した。チューターが学生から相談を受けた際に、メンタルの問題の程度により医学教育センターと連携することとした。センターは学生と面談を行い、カウンセリングや支援をおこなう。必要に応じて保護者や健康管理センターと連携を取りながら対応する。また、必要な学生には</p>	

長期・継続的な支援を行う。
改善状況を示す根拠資料
なし

6 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
改善状況	
図書館の改築工事の影響で学生が自習できる場所が少なくなったことから、基礎第2研究棟実習室のwifi環境を整備した。	
今後の計画	
必要に応じてwifi環境を整備し学生が自習できる場所を確保していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

6 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
改善状況	
出席管理システムを刷新し、我々が開発した独自のシステムを導入した。欠席が多い学生を自動でピックアップするシステムを組み込んだことにより、学生の出席状況をより詳細に把握することが可能となった。	
今後の計画	
欠席の多い学生に対して必要に応じて支援を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆・助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習の評価基準を各診療科で統一し、知識、技能および態度を確実に評価すべきである。 ・臨床実習においてポートフォリオ評価を実質化すべきである。 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において mini-CEX, 360 度評価などを導入することが望まれる。 	
現在の状況	
<p>ポートフォリオは利用されているものの、全体として運用されているとはいえない。</p> <p>e-ポートフォリオについて情報メディア教育センター教員と検討を行った。</p>	
今後の計画	
<p>広島大学全学で運用されている e ポートフォリオについて、臨床実習のみならず、低学年における講義・実習等での導入の検討を行う。またそのプラットフォームを既存の LMS の中で行えるかどうかについて検討を進める。</p> <p>臨床実習の評価項目、評価基準、評価方法についての検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、教育技法、臨床参加型臨床実習の質を包括的に評価することが望まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナリズムなど、長期間で獲得される学修成果を測定することが望まれる。 	
現在の状況	
<p>アンプロフェッショナルな行動をとる学生について、共通の定義がなされていない。</p>	
今後の計画	
<p>アンプロフェッショナルな学生については学生、教員間で定義を共有する必要がある。その上で、教員間で情報共有し、その評価、指導方法についても具体的</p>	

<p>に検討していく予定である。 また態度面の評価の標準化と 360 度評価の導入の検討を行う。</p>
<p>現在の状況を示す根拠資料</p>
<p>なし</p>

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
<p>質的向上のための水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>各委員会の機能分担と相互の関係性を明確にすべきである。</p>	
<p>現在の状況</p>	
<p>各委員会の業務機能分担は大体なされているが、相互関係性は明確になっていない。医学教育センター教員が兼任する委員となっていることから、相互関係性を明確する役割を担うこととなった。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>各委員会の業務および相互関係性を明確にし、共有する。各委員会の年間活動計画および長期的な目標の達成を意識した活動を行う。</p>	
<p>現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>なし</p>	